

1. 構造名：
通気見切り金物・スラグせっこう板張／木製下地軒裏

2. 仕様の寸法：
仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
軒の出	2000mm 以下(壁勝ち、軒勝ち)
軒の形状	勾配又は水平

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項 目	仕 様								
被覆材	材料：スラグせっこう板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8314、NM-8315) 組成(質量%)： <table> <tr> <td>二水せっこう</td><td>30(±3)～50(±5)</td></tr> <tr> <td>スラグ</td><td>30(±3)～50(±5)</td></tr> <tr> <td>無機質混和材</td><td>5(±1)～20(±2)</td></tr> <tr> <td>有機質繊維</td><td>5(±1)以下</td></tr> </table> 厚さ：8(±0.4)～18(±1)mm 表面形状：①～④の一 ①平滑 ②エンボス(但し、最小厚さ8(-0.4)mmを確保) ③平滑・溝加工(但し、最小厚さ8(-0.4)mmを確保) ④エンボス・溝加工(但し、最小厚さ8(-0.4)mmを確保) 密度：0.90～1.20g/cm³ 表面化粧 仕様：あり又はなし 材料：①、②又は①及び② ①塗料 材質：1)～7)の一、又は組合わせ 1) アクリル樹脂系塗料 2) アクリルウレタン樹脂系塗料 3) ウレタン樹脂系塗料 4) アクリルシリコーン樹脂系塗料 5) フッ素樹脂系塗料 6) エポキシ樹脂系塗料 7) 無機質系塗料(ポリシロキサン系等) ②化粧紙：1)及び2) 1) 化粧紙 材質：a)～c)の一 a) 紙系 b) 塩化ビニル系 c) オレフィン系 2) 接着剤 材質：a)～c)の一 a) アクリル系 b) ウレタン系 c) エポキシ系 有機質量(固形分量)：200g/m²以下	二水せっこう	30(±3)～50(±5)	スラグ	30(±3)～50(±5)	無機質混和材	5(±1)～20(±2)	有機質繊維	5(±1)以下
二水せっこう	30(±3)～50(±5)								
スラグ	30(±3)～50(±5)								
無機質混和材	5(±1)～20(±2)								
有機質繊維	5(±1)以下								

つづく

つづき

通気見切り金物	本体： 材料：①～⑳の一 ①冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯(JIS G 4305) ②熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯(JIS G 4304) ③耐海水ステンレス鋼板 化学成分(質量%)： $C \leq 0.020$、$Si \leq 0.80$、$Mn \leq 1.00$、$P \leq 0.030$、$S \leq 0.015$、$Ni 17.00 \sim 19.50$、$Cr 19.00 \sim 21.00$、$Mo 5.50 \sim 6.50$、$N 0.16 \sim 0.24$、$Cu 0.50 \sim 1.00$ ④高耐錆性ステンレス鋼板 化学成分(質量%)： $C \leq 0.010$、$Si \leq 1.00$、$Mn \leq 1.00$、$P \leq 0.040$、$S \leq 0.007$、$Ni \leq 0.60$、$Cr 22.00 \sim 23.00$、$Mo 1.50 \sim 2.50$、$N \leq 0.020$、$Nb+Ti \geq 16(C+N)$ ⑤塗装溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3322) ⑥塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3318) ⑦塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3312) ⑧溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3321) ⑨溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3317) ⑩溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3302) ⑪ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) 下地金属板による種類：SG、S、SA、SE、SC、SM、SU ⑫建築構造用溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069、0070) ⑬一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) ⑭熱間圧延軟鋼板及び鋼帯(JIS G 3131) ⑮冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) ⑯電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3313) ⑰溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3314) ⑱溶融亜鉛－6%アルミニウム－3%マグネシウム合金めっき鋼板 ⑲溶融亜鉛－11%アルミニウム－3%マグネシウム合金めっき鋼板 ⑱、⑲の母材の材質：冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) ⑳溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3323) 厚さ：0.35mm 以上
---------	---

つづく

つづき

通気見切り金物	表面化粧・裏面化粧： 仕様：あり又はなし 材料：1)～10)の一、又は組合せ 1) エポキシ・ポリエステル樹脂系塗料 2) エポキシ樹脂系塗料 3) ポリエステル樹脂系塗料 4) アクリル樹脂系塗料 5) アクリルウレタン樹脂系塗料 6) ポリウレタン樹脂系塗料 7) ウレタン樹脂系塗料 8) フッ素樹脂系塗料 9) アクリルシリコン樹脂系塗料 10) 無機質系塗料(ポリシロキサン系等) 有機質量(固形分量)： 表裏面合計 600g/m²以下(単位長さあたり換算：124.1g/m以下) (但し、本体の材料⑤～⑦及び⑪は被覆(塗装)との合計) 表面 300g/m²以下(単位長さあたり換算：62.05g/m以下) 裏面 300g/m²以下(単位長さあたり換算：62.05g/m以下)
	換気孔： 仕様：あり又はなし 換気孔の寸法(1孔あたり)：4.5(±1)mm×16.5(±3)mm以下 換気孔間隔：2(±1)mm以上 換気孔面積：114.35(±10)cm²/m以下
	フラップ： 仕様：あり又はなし 材料：塩化ビニル樹脂 厚さ：1.2(±0.2)mm以下
	水密材1： 仕様：あり又はなし 材料：1)及び2) 1) EPDM系 見掛け密度：0.04(±0.01)～0.11(±0.02)g/cm³ 寸法：厚さ6(±3)mm×幅10(±3)mm 2) 固定用粘着剤 材質：a)～c)の一 a) アクリル系 b) ゴム系 c) 合成樹脂系 厚さ：0.34(±0.05)mm以下 幅：10(±3)mm以下

つづく

つづき

通気見切り金物	水密材 2 : 仕様 : あり又はなし 材料 : 1) 及び 2) 1) EPDM 系 見掛け密度 : $0.04(\pm 0.01) \sim 0.13(\pm 0.02) \text{ g/cm}^3$ 寸法 : 厚さ $3(\pm 3) \text{ mm} \times$ 幅 $10(\pm 3) \text{ mm}$ 2) 固定用粘着剤 材質 : a) ~ c) の一 a) アクリル系 b) ゴム系 c) 合成樹脂系 厚さ : $0.34(\pm 0.05) \text{ mm}$ 以下 幅 : $10(\pm 3) \text{ mm}$ 以下										
	加熱発泡材 : 仕様 : あり又はなし 材料 : 1) 及び 2) 1) グラファイト系加熱発泡材 組成 (質量%) : <table data-bbox="491 857 941 1032"> <tr> <td>膨張性黒鉛</td><td>30 (±5)</td></tr> <tr> <td>粉末充てん材</td><td>20 (±5)</td></tr> <tr> <td>ゴムバインダー</td><td>15 (±5)</td></tr> <tr> <td>耐熱性繊維類</td><td>20 (±5)</td></tr> <tr> <td>難燃剤・ゴム薬品等</td><td>15 (±5)</td></tr> </table> 寸法 : 厚さ $1.5(\pm 0.3) \sim 5(\pm 0.5) \text{ mm} \times$ 幅 $8(\pm 0.5) \sim 20(\pm 0.5) \text{ mm}$ 2) 固定用粘着剤 仕様 : あり又はなし 材質 : a) ~ c) の一 a) アクリル系 b) ゴム系 c) 合成樹脂系 厚さ : $0.34(\pm 0.05) \text{ mm}$ 以下 幅 : ①グラファイト系加熱発泡材の幅以下 位置 : 1) 又は 2) 1) 壁側 2) 鼻隠し側	膨張性黒鉛	30 (±5)	粉末充てん材	20 (±5)	ゴムバインダー	15 (±5)	耐熱性繊維類	20 (±5)	難燃剤・ゴム薬品等	15 (±5)
膨張性黒鉛	30 (±5)										
粉末充てん材	20 (±5)										
ゴムバインダー	15 (±5)										
耐熱性繊維類	20 (±5)										
難燃剤・ゴム薬品等	15 (±5)										
接合部材	仕様 : あり又はなし 材料、表面化粧・裏面化粧 : 通気見切り金物 (本体) と同じ 厚さ : 0.35 mm 以上 幅 : $10 \sim 200 \text{ mm}$										
防水テープ	仕様 : あり又はなし 材質 : 1) 又は 2) 1) アクリル系 2) ゴム系 厚さ : $1(\pm 0.1) \text{ mm}$ 以下										

つづく

つづき

野縁 1	仕様：あり又はなし(被覆材を下地材に留付ける場合に限る) 材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30(±3)×40(±4)mm 以上
野縁 2	材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30(±3)×30(±3)mm 以上
野縁 3	仕様：あり又はなし 材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：25(±3)×30(±3)mm 以上
下地材(被覆材を下地材に留付ける場合)	材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30(±3)×130(±13)mm 以上
受材	材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30(±3)×40(±4)mm以上 取付間隔：455mm 以下
目地部材	仕様：①～⑤の一 ①面取突き付け ②突き付け ③面取合いじゃくり ④合いじゃくり ⑤金属ジョイナー 材質：鋼製又はステンレス鋼製(塗装鋼板及びめっき鋼板を含む) 厚さ：0.25mm以上 形状：H 形又は T 形
吊木	仕様：あり又はなし 材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、桝組壁工法構造用製材、集成材、桝組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：25(±3)×30(±3)mm以上 取付間隔：2000mm 以下

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項 目	仕 様
留付材	被覆材固定用： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ ②ねじ 寸法：胴部径又は呼び径 $\phi 2.1(\pm 0.2) \times 38(\pm 4)$ mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔： 軒の出方向 185mm 以下 軒の幅方向 127mm 以下
	野縁1 固定用： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径 $\phi 2.75(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$ mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径 $\phi 3.0(\pm 0.3) \times 40(\pm 4)$ mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：480mm 以下
	野縁2 固定用： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径 $\phi 2.75(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$ mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径 $\phi 3.0(\pm 0.3) \times 40(\pm 4)$ mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：480mm 以下
	野縁3 固定用：(野縁3を用いる場合) 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径 $\phi 2.75(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$ mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径 $\phi 3.0(\pm 0.3) \times 40(\pm 4)$ mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：2000mm 以下

つづく

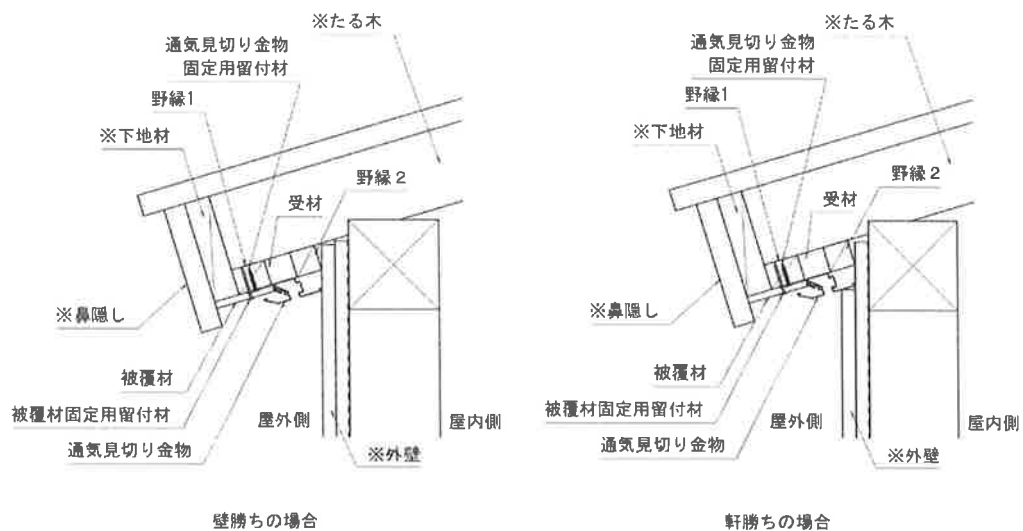
つづき

留付材	受材固定用： 野縁1と固定する場合： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径$\phi 3.05(\pm 0.3) \times 65(\pm 7)$mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径$\phi 3.0(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：受材1本につき1箇所以上 野縁2と固定する場合： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径$\phi 2.75(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径$\phi 3.0(\pm 0.3) \times 40(\pm 4)$mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：受材1本につき1箇所以上
	通気見切り金物固定用： 材料：ねじ 寸法：呼び径$\phi 3.8(\pm 0.4) \times 28(\pm 3)$mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：受材1本につき1箇所以上
	吊木固定用(吊木を用いる場合)： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径$\phi 2.75(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径$\phi 3.0(\pm 0.3) \times 40(\pm 4)$mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：1本以上/箇所
	下地材固定用(下地材を用いる場合)： 材料：①、②又は組合せ ①くぎ 寸法：胴部径$\phi 3.05(\pm 0.3) \times 65(\pm 7)$mm 以上 ②ねじ 寸法：呼び径$\phi 3.0(\pm 0.3) \times 50(\pm 5)$mm 以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：940mm 以下

5. 仕様の構造説明図：

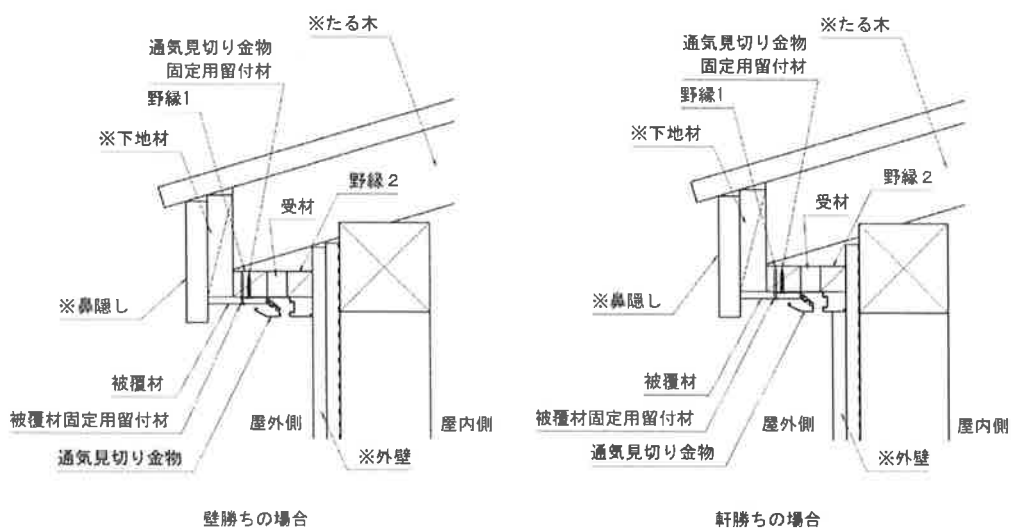
仕様の構造説明図を図1～図10に示す。

図中の単位については、特記のない限りmmとする。



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

※評価対象外
軒部詳細図（勾配仕様）

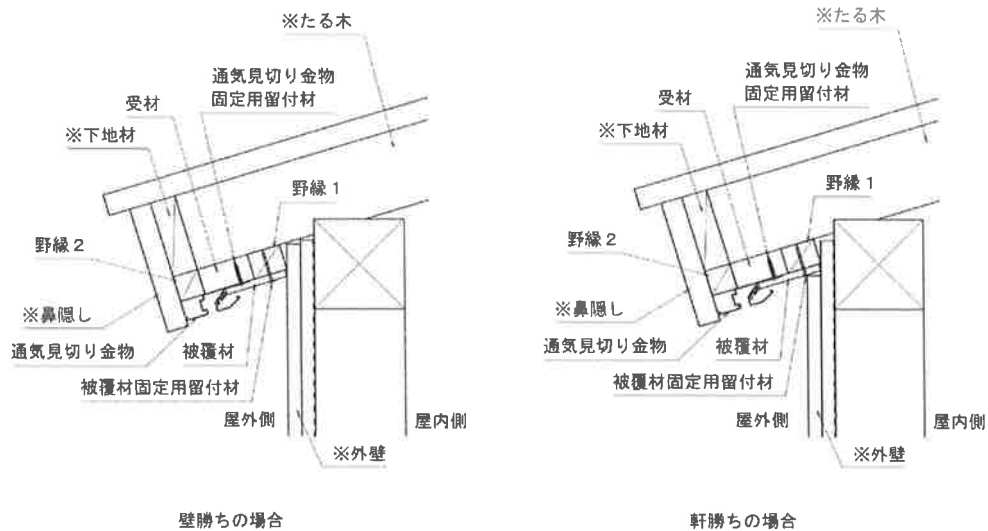


被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

※評価対象外
軒部詳細図（水平仕様）

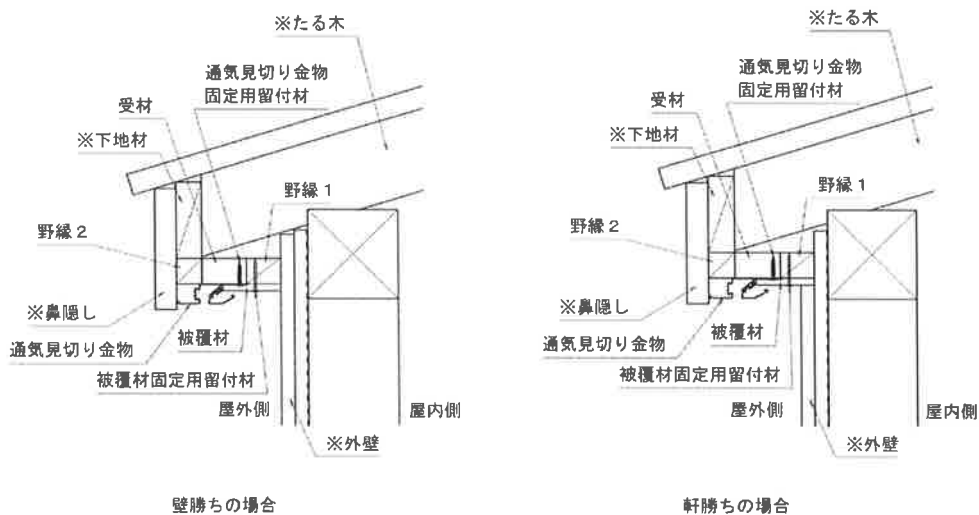
注）軒の出は通気見切り金物と下地材、野縁1(外さない場合)、野縁2が納まる寸法とする。

図1 構造説明図(軒の出最小の場合/通気見切り金物壁側)



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
軒部詳細図（勾配仕様）

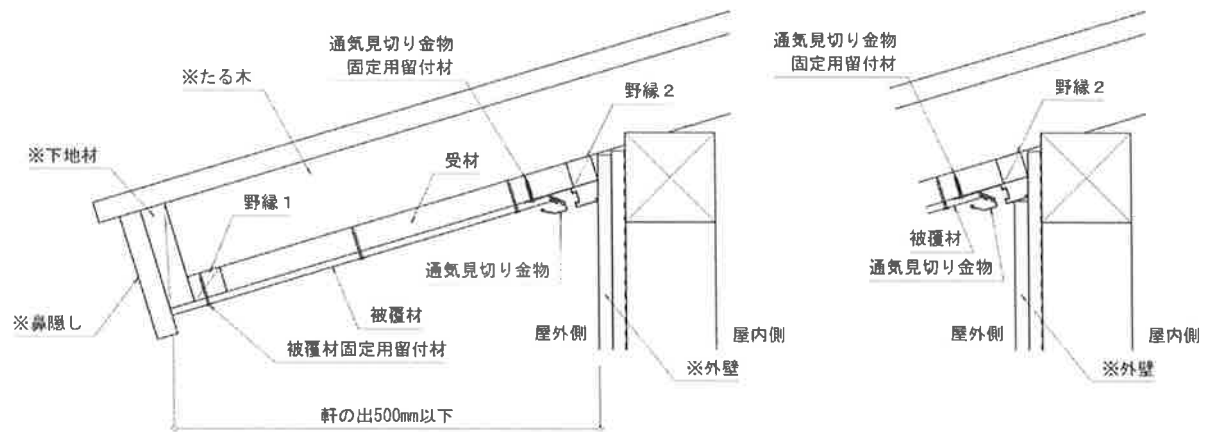


下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
軒部詳細図（水平仕様）

注）軒の出は通気見切り金物と下地材、野縁1、野縁2が納まる寸法とする。

図2 構造説明図(軒の出最小の場合/通気見切り金物鼻隠し側)

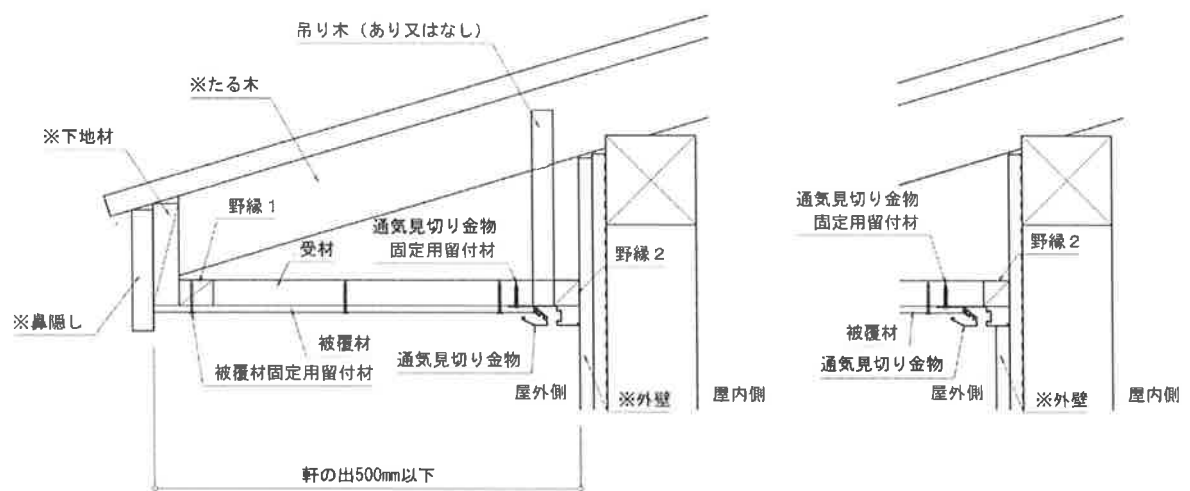


壁勝ちの場合

軒勝ちの場合

被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

※評価対象外
軒部詳細図（勾配仕様）



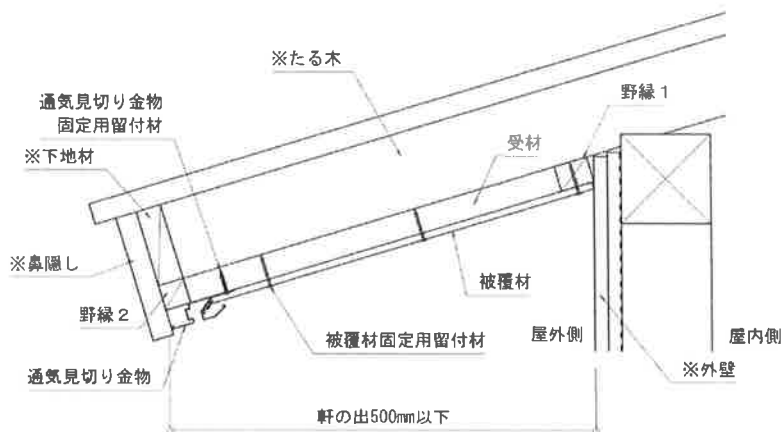
壁勝ちの場合

軒勝ちの場合

被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

※評価対象外
軒部詳細図（水平仕様）

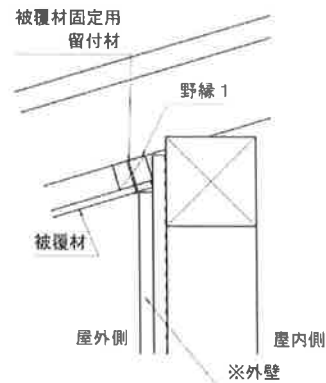
図3 構造説明図(軒の出500mm以下の場合/通気見切り金物壁側)



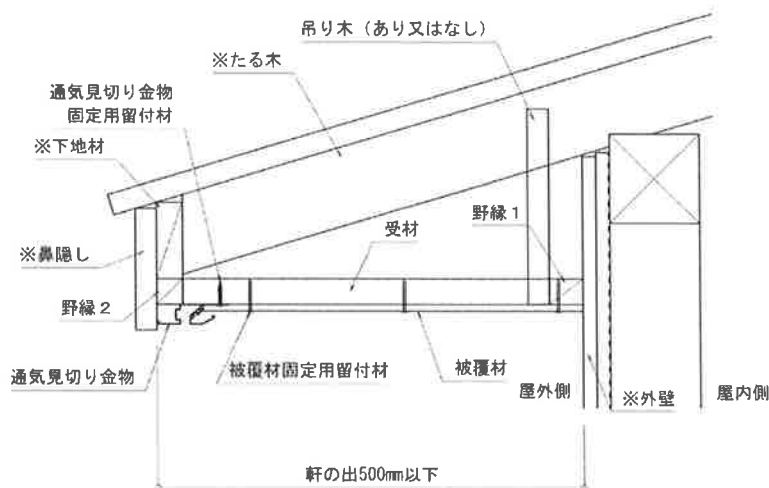
壁勝ちの場合

下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
軒部詳細図 (勾配仕様)



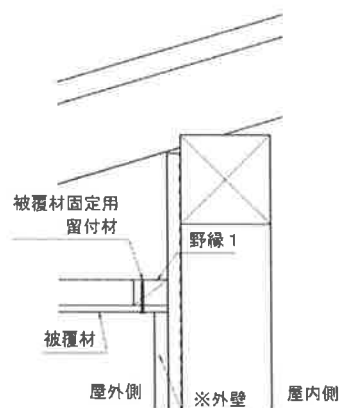
軒勝ちの場合



壁勝ちの場合

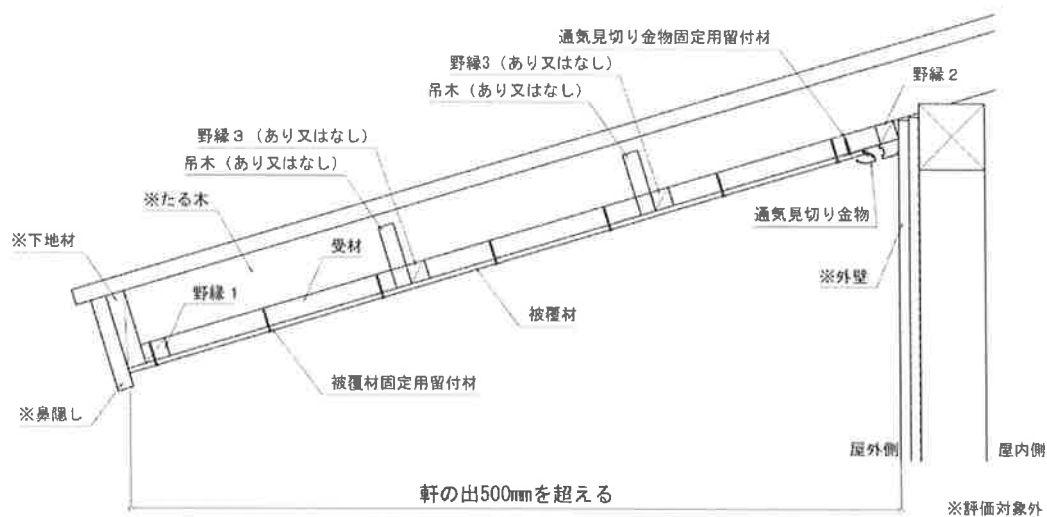
下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
軒部詳細図 (水平仕様)



軒勝ちの場合

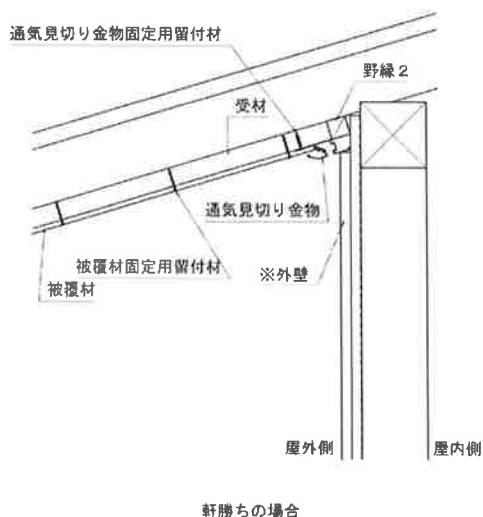
図4 構造説明図(軒の出500mm以下の場合/通気見切り金物鼻隠し側)



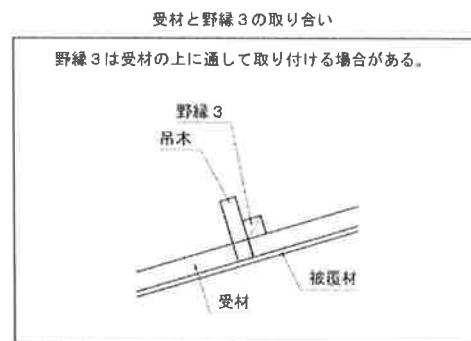
壁勝ちの場合

野縁3を直接たる木に固定し、吊木を省略する場合もある。
 中間の吊木、野縁3は軒の出長さに応じ、設置数を増減する。

被覆材を下地に留付ける場合もある。
 その場合は下地材を評価対象とし、
 野縁1を外すことができる

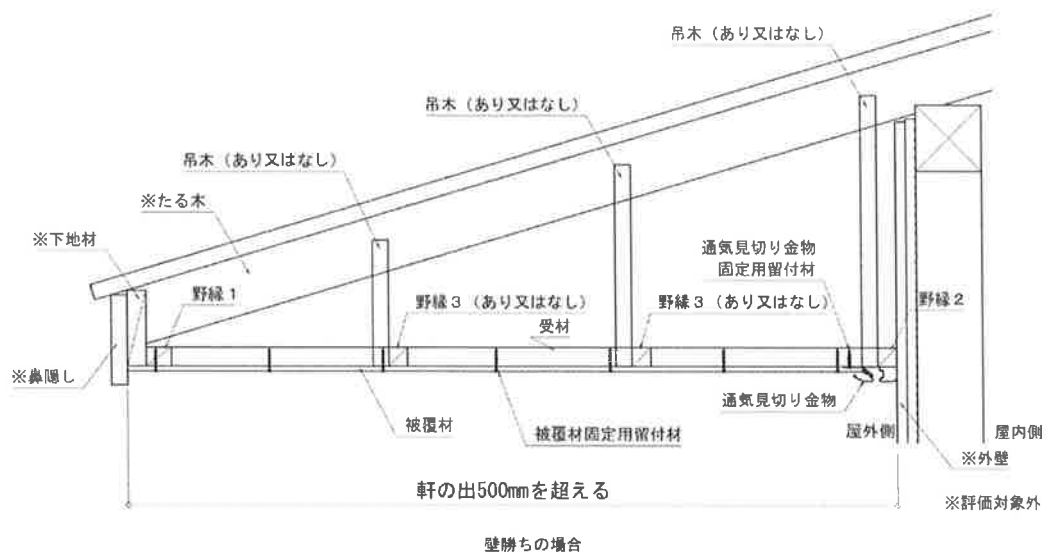


軒勝ちの場合



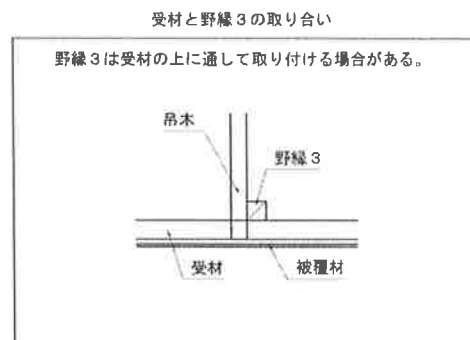
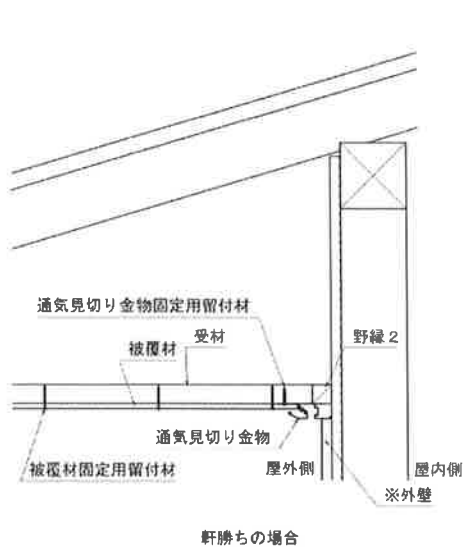
軒部詳細図（勾配仕様）

図5 構造説明図(軒の出 500mm を超える場合/通気見切り金物壁側)



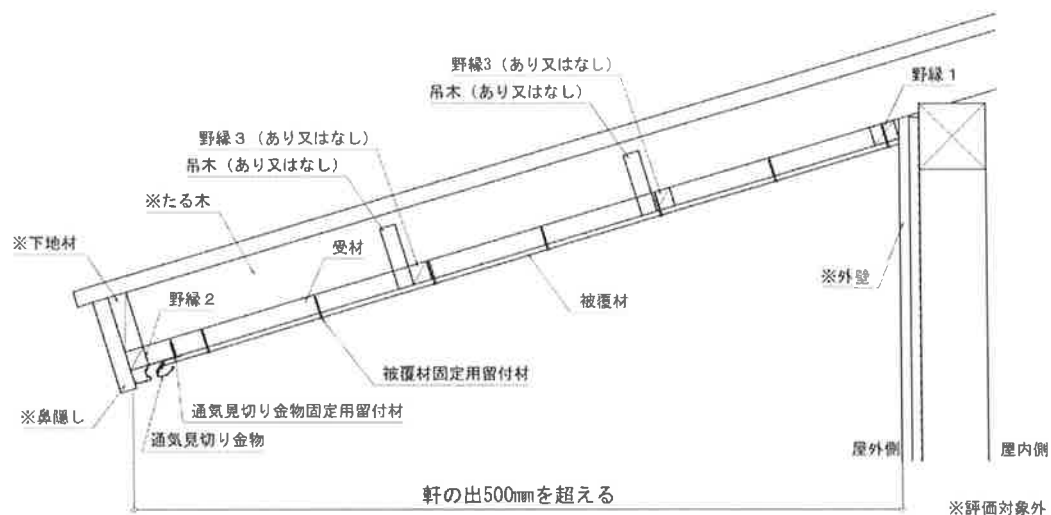
野縁 3 を直接たる木に固定し、吊木を省略する場合もある。
 中間の吊木、野縁 3 は軒の出長さに応じ、設置数を増減する。

被覆材を下地に留付ける場合もある。
 その場合は下地材を評価対象とし、
 野縁 1 を外すことができる



軒部詳細図 (水平仕様)

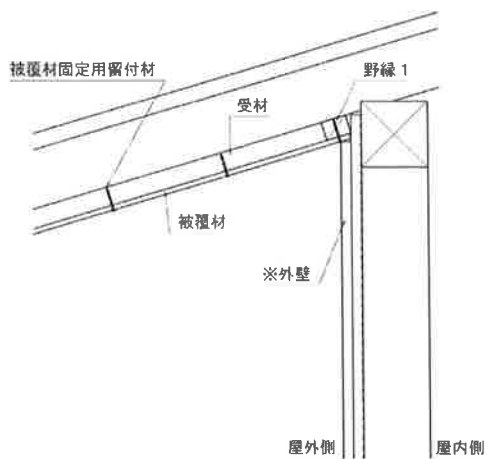
図 6 構造説明図(軒の出 500mm を超える場合/通気見切り金物壁側)



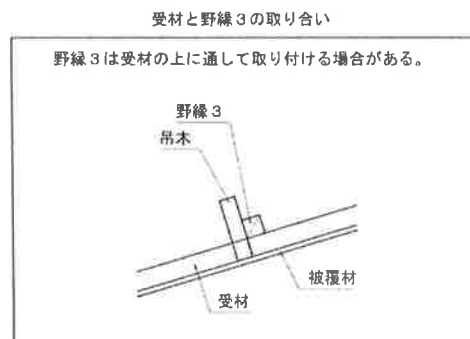
壁勝ちの場合

野縁3を直接たる木に固定し、吊木を省略する場合もある。
 中間の吊木、野縁3は軒の出長さに応じ、設置数を増減する。

下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで
 野縁2を省略する場合もある。
 その場合は下地材を評価対象とする。

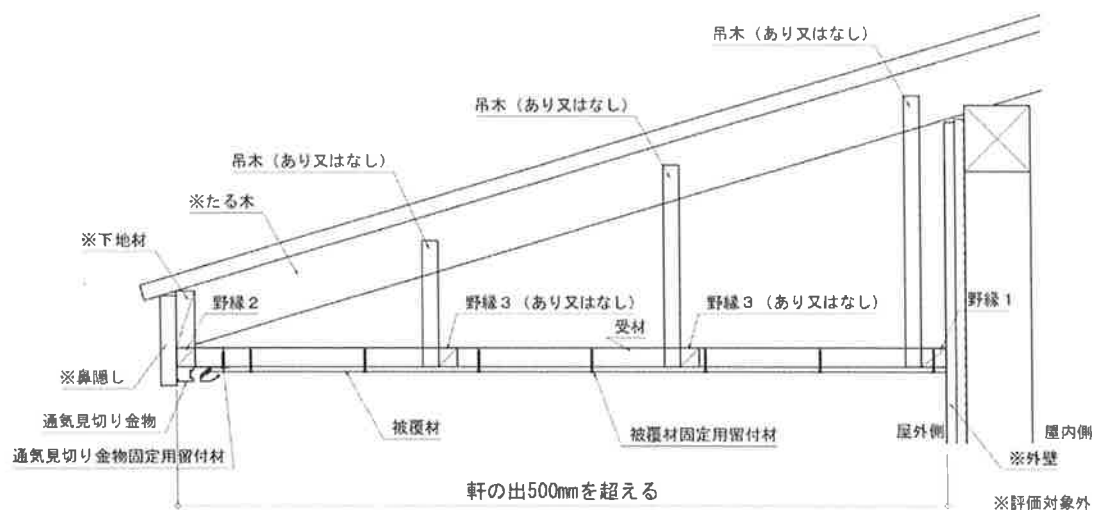


軒勝ちの場合



軒部詳細図 (勾配仕様)

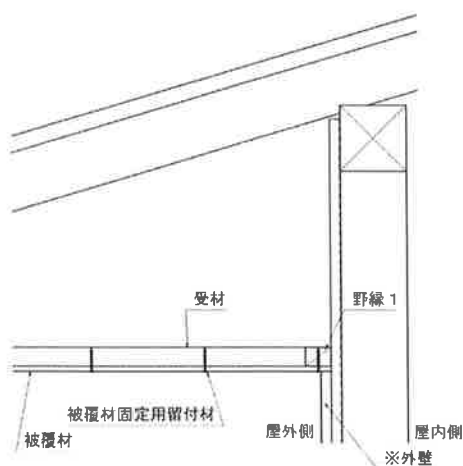
図7 構造説明図(軒の出500mmを超える場合/通気見切り金物鼻隠し側)



壁勝ちの場合

野縁3を直接たる木に固定し、吊木を省略する場合もある。
 中間の吊木、野縁3は軒の出長さに応じ、設置数を増減する。

下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで
 野縁2を省略する場合もある。
 その場合は下地材を評価対象とする。



軒勝ちの場合

受材と野縁3の取り合い

野縁3は受材の上に通して取り付ける場合がある。



軒部詳細図 (水平仕様)

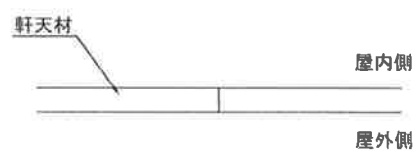
図8 構造説明図(軒の出 500mm を超える場合/通気見切り金物鼻隠し側)

目地部材の仕様

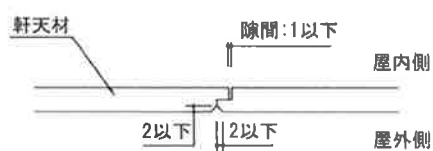
①面取突付け目地



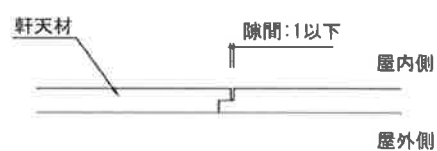
②突付け目地



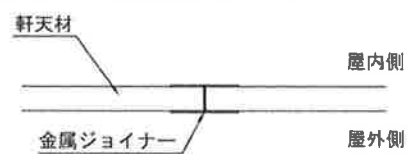
③面取合じゃくり目地



④合じゃくり目地



⑤金属ジョイナー目地 (H形ジョイナー)

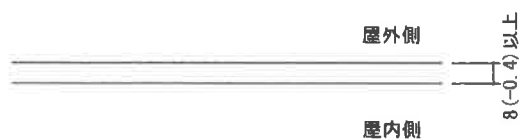


⑤金属ジョイナー目地 (T形ジョイナー)

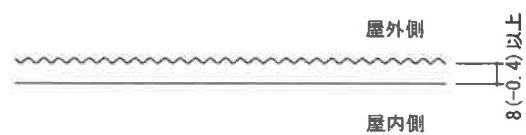


被覆材表面形状

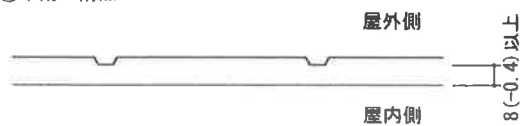
①平滑



②エンボス



③平滑・溝加工



④エンボス・溝加工

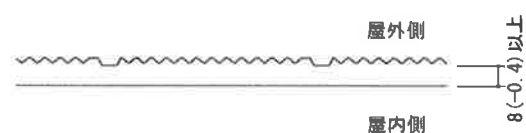
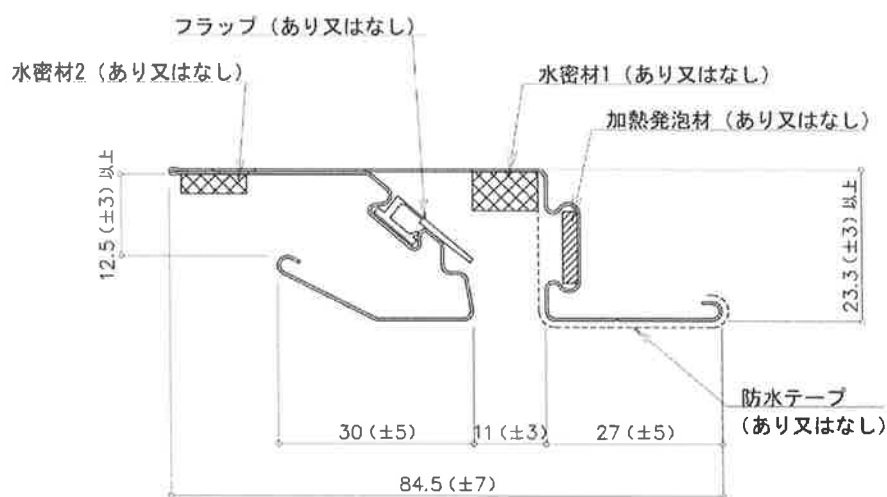
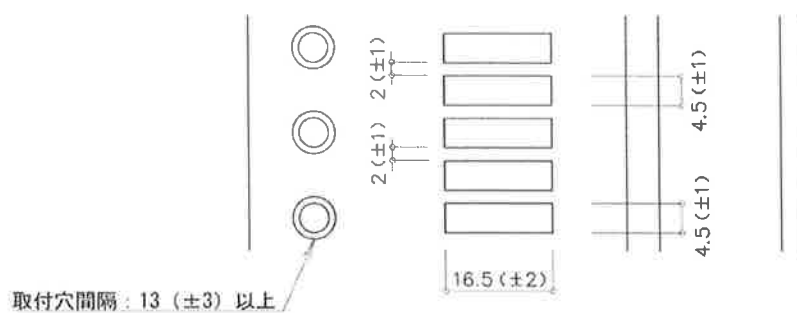
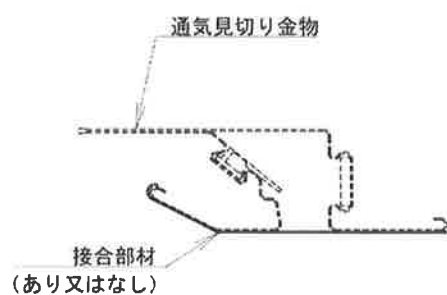


図9 構造説明図

通気見切り金物図



通気見切り金物形状図



A図 接合部材形状図



B図 接合部材形状図

A図を基本形状とし、B図の嵌合用溝部、嵌合引っ掛け部、防水用立ち上げ部を設ける仕様もある。

図10 構造説明図

6. 施工方法

施工図を図 11～図 16 に示す。

施工は以下の手順で行う。

(1) 野縁の取付け

- ・野縁 1 は、たる木、下地材、躯体又はたる木に取付けした吊木に、野縁 1 固定用留付材を用いて固定する。
- ・野縁 2 は、たる木、下地材、躯体又はたる木に取付けした吊木に、野縁 2 固定用留付材を用いて固定する。
- ・野縁 3 を用いる場合はたる木、受材、躯体又はたる木に取付けした吊木に、野縁 3 固定用留付材を用いて固定する。

(2) 受材の取付け

- ・受材は、受材固定用留付材を用いて野縁、下地材、躯体、たる木又はたる木に取付けした吊木に固定する。

(3) 通気見切り金物の取付け

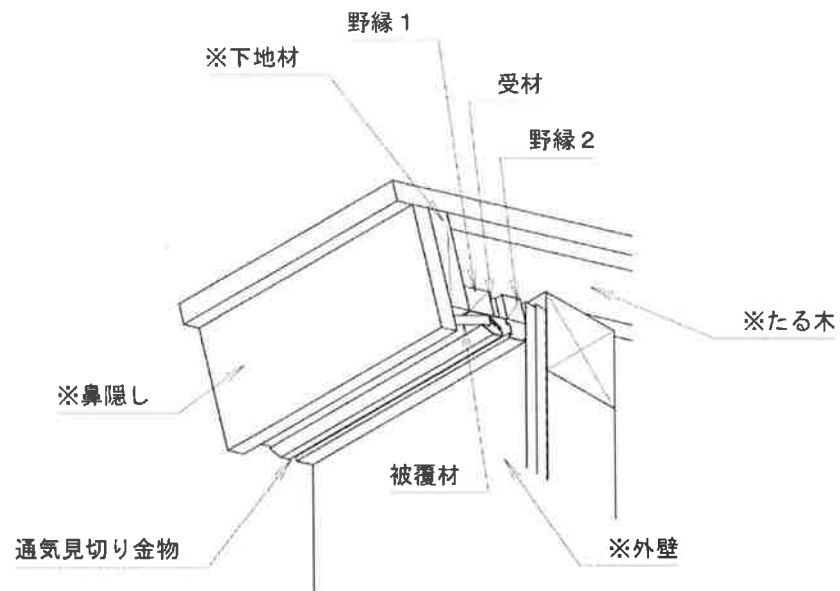
- ・通気見切り金物は、換気金物固定留付材を用いて野縁又は受材に固定する。
- ・通気見切り金物を連続して使用する場合は、突付け又は接合部材を使用して配置する。

(4) 被覆材の取付け

- ・被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて下地材、野縁又は受材に取付ける。
- ・被覆材目地は突き付け、合じゃくり又は金属ジョイナー目地とする。
- ・被覆材と外壁材は、壁勝ち又は軒勝ちとする。必要に応じて金属製の木口見切り又はシーリング材等で納める。
- ・被覆材と鼻隠しは、必要に応じて金属製の木口見切り又はシーリング材等で納める。

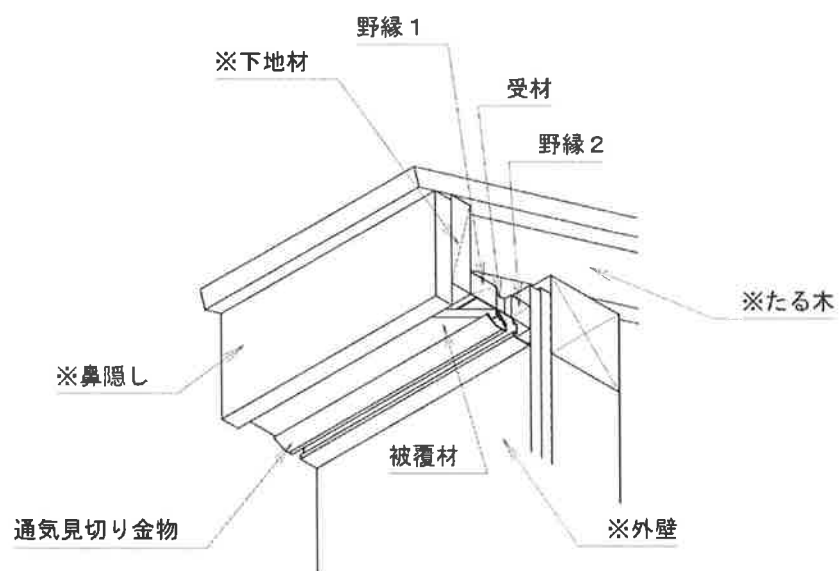
(注意事項)

- ・鼻隠しは、準耐火建築物においては「準耐火建築物の防火設計指針」（財団法人日本建築センター）に準じた仕様にするなど、所定の防耐火性能が確保される仕様とする。
- ・本構造に使用される各留付材は、構造説明図に記載される所定の留付先に十分なかかり代が確保されるよう、留め付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。
- ・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と外壁及び屋根等の取合い部において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる。

※評価対象外
透視図（勾配仕様）

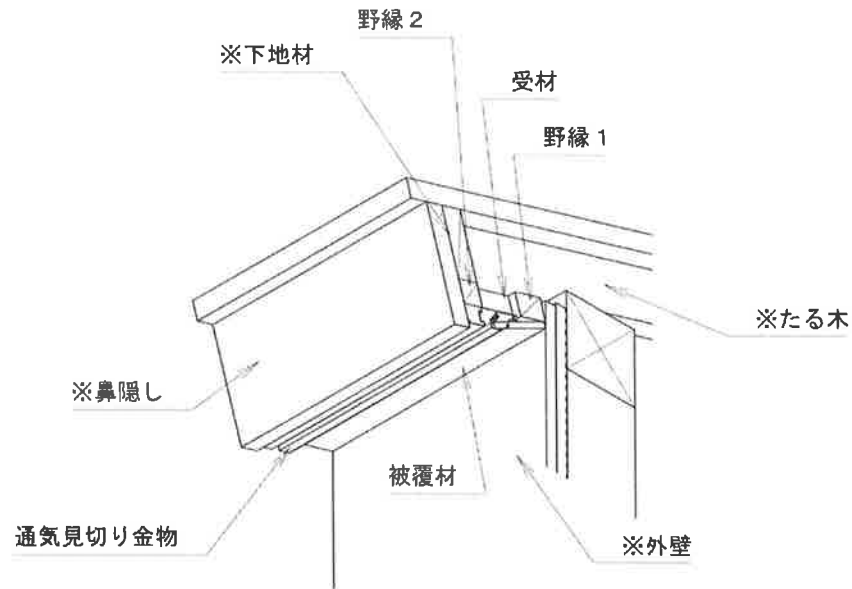


被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

※評価対象外
透視図（水平仕様）

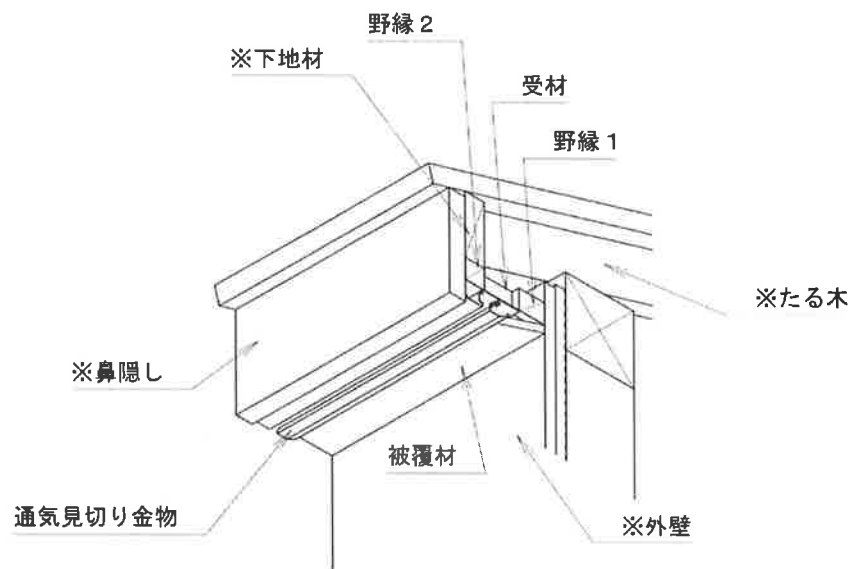
注）軒の出は通気見切り金物と下地材、野縁1(外さない場合)、野縁2が納まる寸法とする。

図 11 施工図(軒の出最小の場合/通気見切り金物壁側)



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
透視図（勾配仕様）

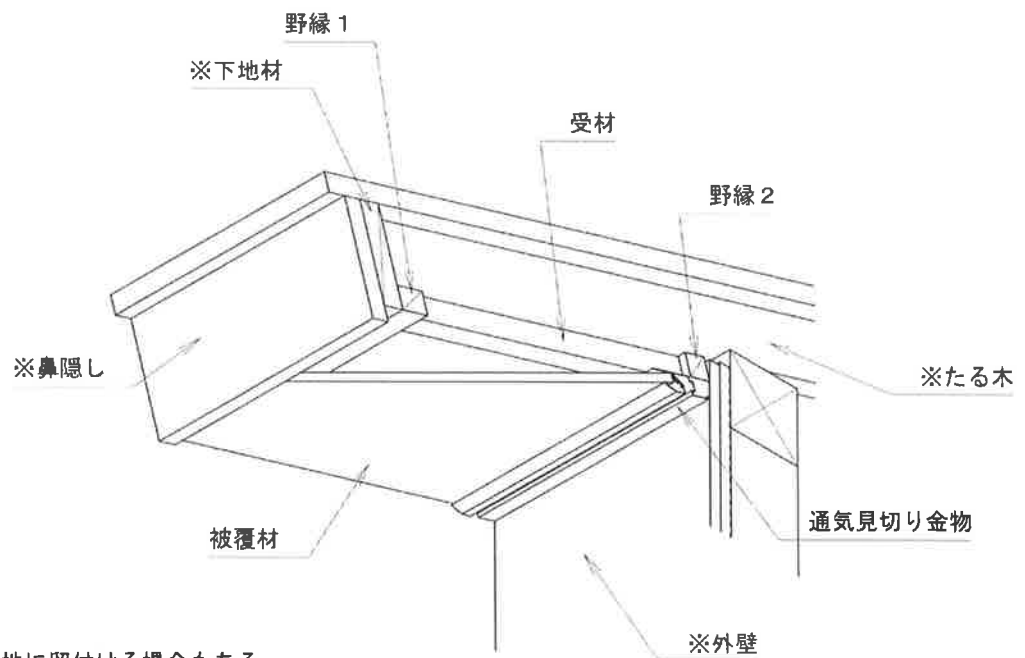


下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
透視図（水平仕様）

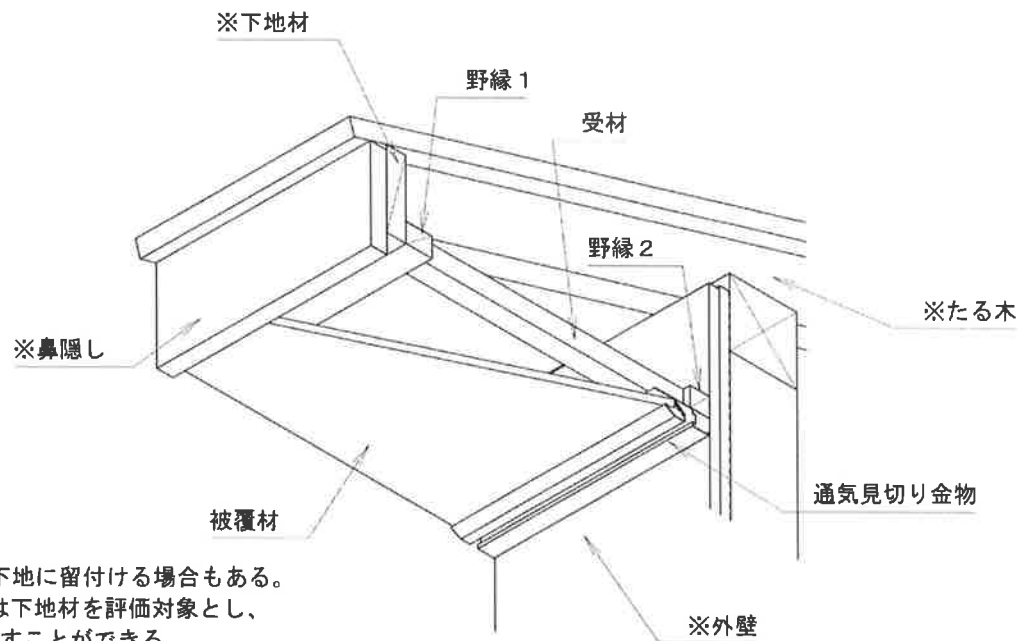
注）軒の出は通気見切り金物と下地材、野縁1、野縁2が納まる寸法とする。

図 12 施工図（軒の出最小の場合/通気見切り金物鼻隠し側）



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

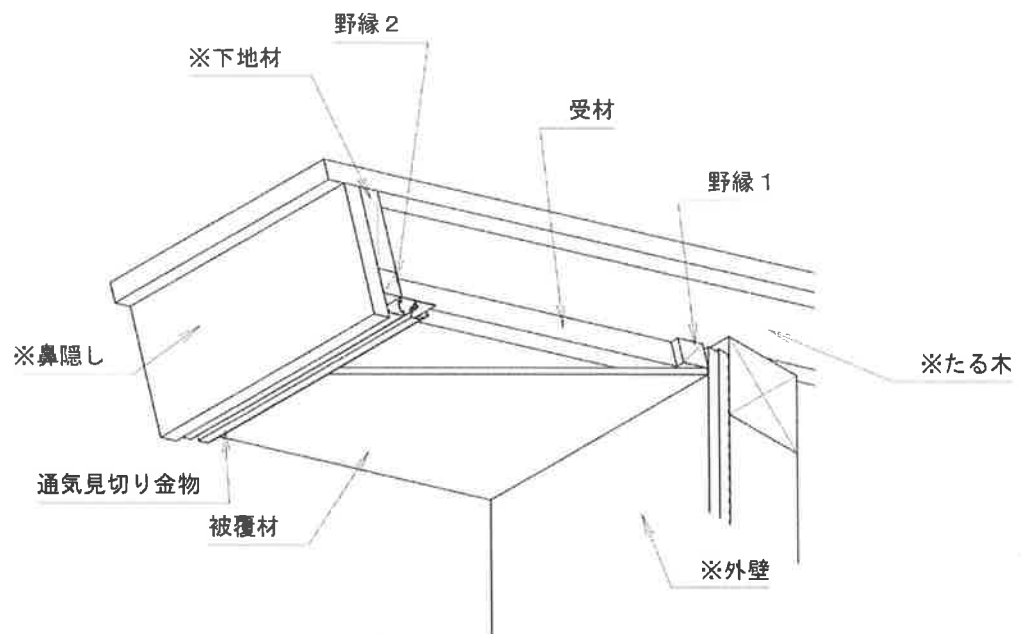
※評価対象外
透視図（勾配仕様）



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

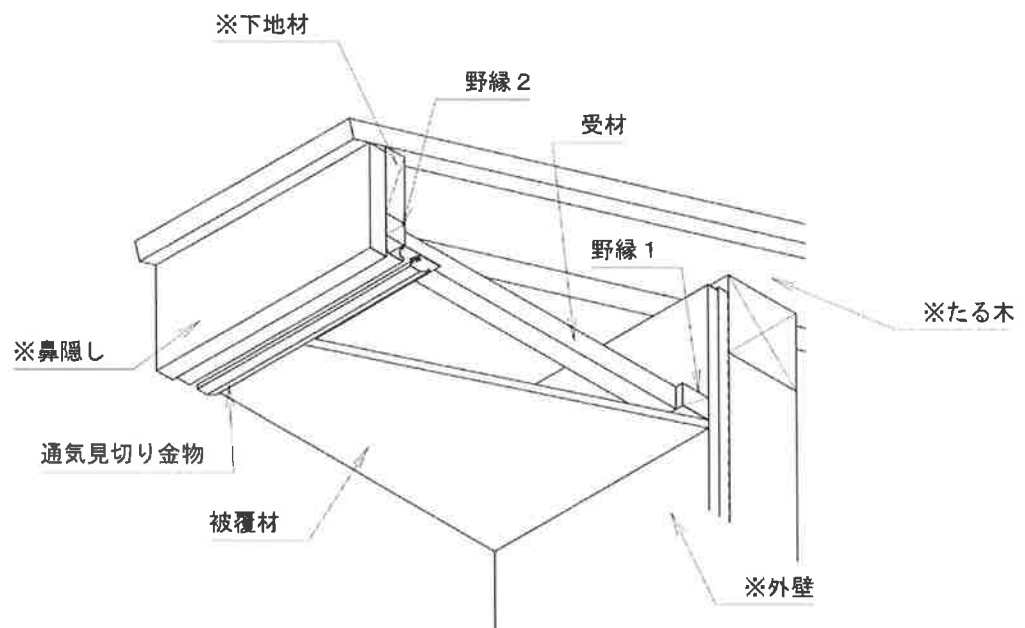
※評価対象外
透視図（水平仕様）

図 13 施工図(軒の出 500mm 以下の場合/通気見切り金物壁側)



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

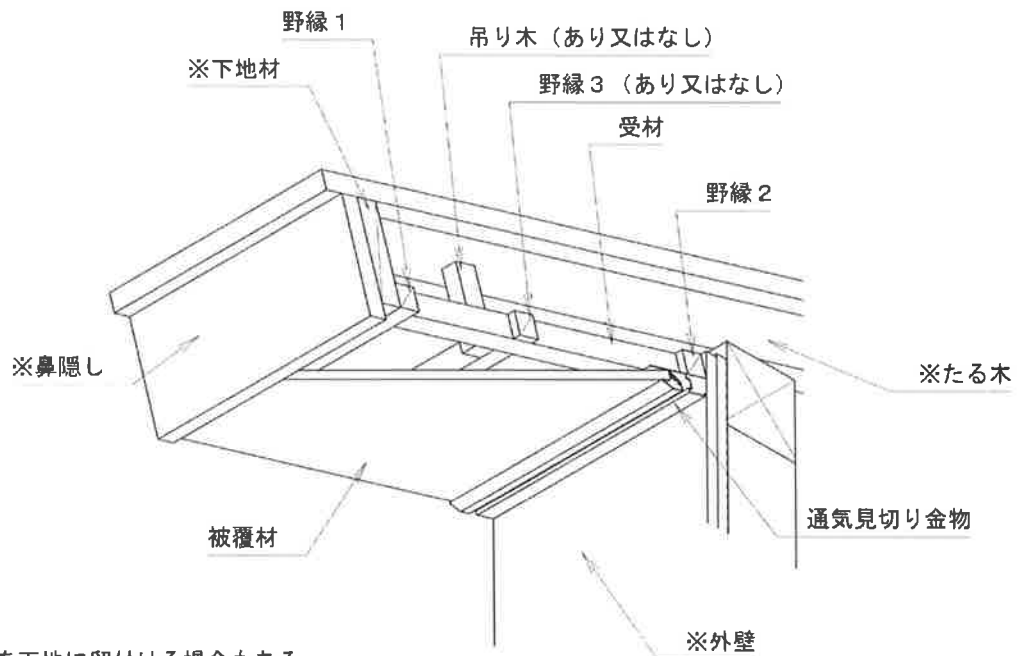
※評価対象外
透視図（勾配仕様）



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

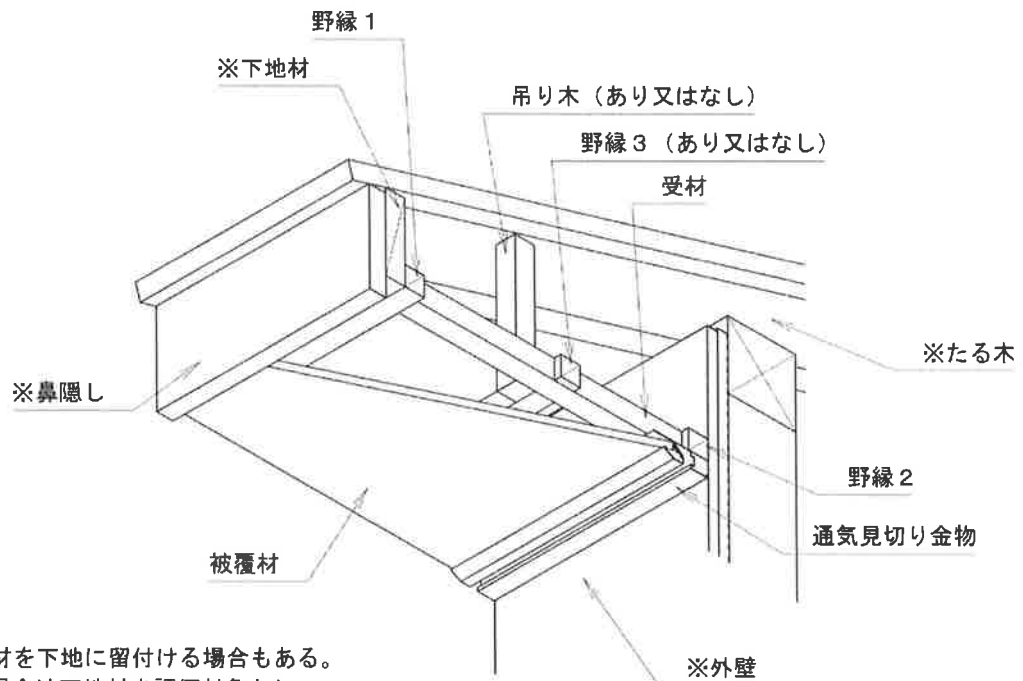
※評価対象外
透視図（水平仕様）

図 14 施工図(軒の出 500mm 以下の場合/通気見切り金物鼻隠し側)



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

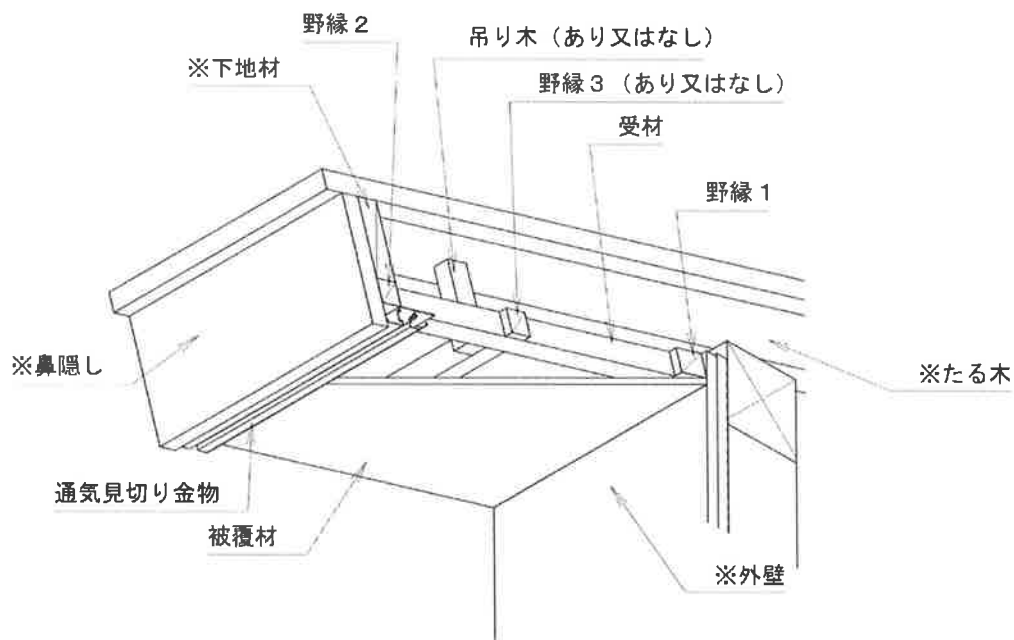
※評価対象外
透視図 (勾配仕様)



被覆材を下地に留付ける場合もある。
その場合は下地材を評価対象とし、
野縁1を外すことができる

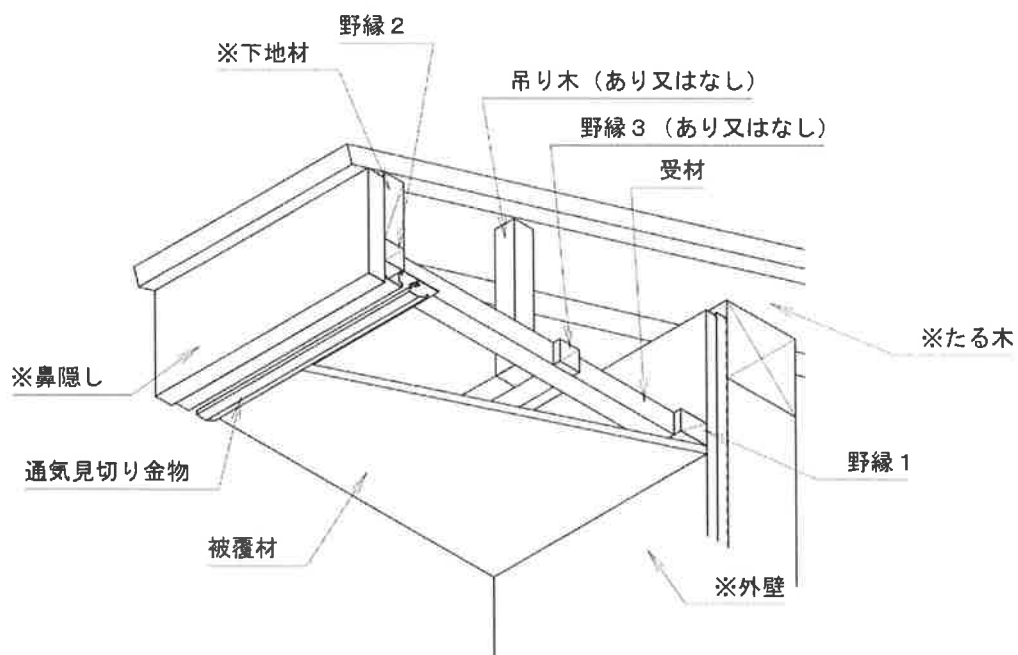
※評価対象外
透視図 (水平仕様)

図 15 施工図(軒の出 500mm を超える場合/通気見切り金物壁側)



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
透視図 (勾配仕様)



下地材を通気見切り金物側に伸ばし、受材と下地材を直に接合することで野縁2を省略する場合もある。
その場合は下地材を評価対象とする。

※評価対象外
透視図 (水平仕様)

図 16 施工図(軒の出 500mm を超える場合/通気見切り金物鼻隠し側)